

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2020年度第4回短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会議事録

I. 日 時 令和3年2月27日(土) 14:00~16:00
場 所 ZOOM 会議室

II. 出席者 戸高委員長、三田委員、西岡委員、後藤委員、大重委員、早坂委員と以下のコンソーシアム参加校(4校)
山野美容芸術短期大学(及川先生)、和泉短期大学(深町先生)、
大阪夕陽丘学園短期大学(治京先生)、別府大学短期大学部(衛藤先生)
(事務局 井端事務局長、中村)

III. 検討事項

1. 地域貢献支援事業における今年度の取組み結果の確認と来年度の取組み計画について
参加校でとりまとめた「2020年度活動報告」及び「2021年度活動計画」に基づき、以下の点を確認した。

(1) 高齢者との交流による支援事業

- ① 参加校としての実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学の2校は、高齢者支援事業の前段階として、「ICT活用による世代を超えた交流活動」をテーマに、異世代の参加者(短期大学OB、日野市職員、地域の自治会長などの社会人、高齢者で9名から12名)と交流活動を試行した。
- ② 交流活動は、短期大学の昼休み時間(20分)を活用し、6月から8月の前期に8回(8週間)と10月から11月の後期に6回(6週間)の合わせて14回(14週間)に亘り、4グループから9グループを編成してZoomで実施した。なお、上記以外に交流活動を始めるための説明会を前期は6月上旬、後期は10月上旬に実施して臨んだ。
前期8回の内、最初の4回は2短期大学(23名)の「学生同士の交流」を行い、その後で「異世代(12名)との交流(全体で31名)」を4回実施、後期6回の内、最初の2回は2短期大学(25名)の「学生同士の交流」、その後で「異世代(9名)との交流(全体で38名)」を4回実施した。運営は、学内事務職員と情報センターの支援、2短期大学の各担当教員1名で対応した。
- ③ グループ討議は、ブレイクアウトルームの機能を用いて、1ルームを「2名から4名の学生」と「1名から2名の異世代」で編成した。「学生同士の交流」は前期に4ルーム、後期に5ルーム、「異世代と学生との交流」は前期、後期とも9ルーム設けて実施した。
- ④ 異世代との交流の仕方については、第1週は顔合わせを行い、学生、高齢者間で聞きたいことを相互に質問、第2週は高齢者からの質問に学生からのミニプレゼンと意見交換、第3週は学生からの質問に高齢者からのミニプレゼンと意見交換、第4週は各ルームの代表学生から、学んだことを教職員、自治体職員に発表する方法で進めた。
学生から高齢者への質問内容は、人生の体験、仕事の内容、健康維持の方法、日々の過ごし方、最近嬉しかったこと、就職活動のアドバイスなどであった。高齢者から学生への質問は、将来の目標や夢、多くの若者が地域活動に参加してもらう方法、コロナ禍の授業の様子、大学で学んでいる内容であった。
- ⑤ 交流活動の成果として、主に以下のような感想があった。

【学生からの感想】

- ・ 異世代との話し合いで視野が広がり、社会や将来を考える機会になった。
- ・ 画面を通してコミュニケーションがとれる楽しさと幸せを体験、心のこもったコミュニケーションの大切さを学んだ。
- ・ 異世代が考えている美容への要望が聞けて将来の参考になった。
- ・ 今までとは違う視点で物事を考えたり、見たりするようになった。
- ・ 短時間で自分の意見をまとめて伝えられるようになった。
- ・ リモートのICT活用力の向上と、見やすいスライド作成ができるようになった。

【担当教員からの感想】

- ・ ICT を活用することで、短期大学間の学生同士とオンラインで交流する機会を提供できた。
- ・ 同世代、高齢者、社会人からの刺激を受け、その後の学習意欲につながる機会を提供できた。
- ・ 社会との接点を持つ、机上の学習とは違う学びを提供できた。

【異世代からの感想】

- ・ 若い人との交流により、自分の生活を見直すきっかけになった。
 - ・ 質問され、考え、答えることにより、自分に向き合うことができた。自分の切れかかった「やる気スイッチ」を押し、感謝している。
 - ・ 機器の使い方や Zoom を学ぶことで、他のオンライン活動に参加できるようになった。
- ⑥ 交流活動の課題としては、昼休みに高齢者とリアルタイムでネットで交流することの難しさを克服する対策、高齢者に対するネット環境の確保とパソコン操作などのサポート体制の対応、交流活動を高齢者に呼びかけるコーディネーターの対応が確認された。
- ⑦ 来年度の活動計画については、令和 2 年度の試行段階で体験した上記⑥の課題などを踏えて、令和 3 年の 6 月、7 月の実験授業で工夫改善した状況を紹介いただき、より多くの短期大学が参加できるような高齢者支援事業の進め方等について、意見交流することを確認した。また、交流活動を始めるためには、学生同士の交流から始め、社会人、高齢者との交流につなげていくプロセスが大切であることも確認し、9 月の戦略会議で紹介・提案することも確認した。

(2) 地域価値発見支援事業

- ① 当初、大阪夕陽丘学園短期大学、上田短期大学、別府大学短期大学、和泉短期大学の 4 校で試行する計画を進めていたが、新型コロナウイルスの拡大を受けて各短期大学での授業が見通せないことなどの状況の中で、大阪夕陽丘学園短期大学の 1 校が 3 つの支援事業に取組んだ。一つは三重県志摩市との地域価値発見支援事業、二つは大阪市天王寺区との食育活動支援事業、三つは兵庫県養父市との文化施設運営支援事業を、以下のように実施した。

② 三重県志摩市との地域価値発見支援事業

志摩市と「文化・教育・学術・まちづくり等の分野の推進に関する連携協定」を行い、真珠の魅力を PR するため、キャリア創造学科 2 年生 60 名が正規授業の一環として、アコヤ真珠の魅力を発信するショーを企画・演出する「パールズコレクション」を令和 3 年 2 月に準備していたが、緊急事態宣言の延長で中止となったため、代替の支援事業として、学生が制作したアクセサリーを期間限定で販売情報を短期大学のホームページに掲載し、2 月に大阪心斎橋で販売した。

成果として、教員からは、作品の制作過程やコーディネート方法などを説明しながら販売を行い、学校では見ることでできない輝いた表情で終始頑張りをみせるなど、学生たちの大きな成長を感じることができた。学生からは制作したものが人から褒められて大変うれしかったとの感想が報告された。

また、志摩市立図書館リニューアルオープンに伴う市民によるパッチワークどん帳制作(舞台幕)のボランティアとして、キャリア創造学科ファッションデザインコースの学生が参加し、緞帳の一部を制作した。

成果として学生からは、遠く離れた知らない土地の人々と繋がる意識を持てた、志摩市の地域の人たちと結びつきを感じたとの感想が報告された。教員からは、パッチワークの縫製技術の向上が得られたというよりは、地域との連携を学生が素直に受け入れ、地域の人々に喜んでもらえるようにと、丁寧に縫う姿に学生の成長を見ることができたとの感想が報告された。自治体からは、三角形などの鋭角なパーツを縫い合わせる技術について、非常に仕上がりがきれいで、作品としてとても良いものに仕上がっているとの高評価をいただいたの感想が報告された。

- ③ 大阪市天王寺区健康局と「健康・栄養・食育の推進に関する連携協定」を行い、食物

栄養学科 2 年生が生活習慣病予防のためのレシピ作りに協力し、提供したメニューを 6 月、7 月に大阪市各区保健福祉センターの健康講座及び料理レシピ検索サイト（クックパッド）で情報発信を行った。

- ④ 養父市と 9 月に包括的連携協定を行い、地域文化の振興・地域活性化、学習成果の発表場所の提供、教育プログラムの開発及び教育の充実、産学共創・産業振興などを目的としている。当面、新設の文化施設でウェディング業務に協力する予定にしている。

- ⑤ 来年度の活動計画については、今年度の結果を踏まえ、各自治体への支援事業を進める予定としている。

志摩市との事業では、大阪天満宮とのコラボレーション企画として 2021 年後期にファッションショーの開催を予定している。また、2022 年 2 月にパールズコレクションを予定しており、ホームページ、遠隔中継、新聞等で情報発進を予定している。さらに大阪阪急梅田本店で志摩市真珠のアクセサリ・ブースも予定している。

大阪市天王寺区とは、食物栄養学科 2 年生 120 名で食育のポスター作りを行い、市に提案することを計画している。なお、食物栄養学科では志摩市、養父市の地産池沼を用いたメニュー開発を計画している。

養父市とは、令和 3 年度新設の文化施設の落成イベントとして 1 組の結婚式を行うことになり、企画運営に大阪夕陽丘学園短期大学のノウハウと学生らの若い感性を採り入れる予定としている。

（3）地域課題取組情報共有の支援事業

- ① 地域貢献支援事業のプラットフォームとして利用する GoogleClassroom の使い方について、修正版として「プラットフォーム運用マニュアル（2021 年 1 月版）」を作成し、コンソーシアムに参加登録した短期大学が推進する地域貢献活動の成果、進捗状況など他の参加校と共有可能な公開情報を対象としており、公開情報の選定は各支援事業の管理者が担当することを確認した。内容としては、プラットフォームへの入り方、支援事業の使用方法、支援事業の登録、メンバー管理と課題としている。また、「プラットフォーム管理マニュアル（改訂版 2021 年 2 月版）」を作成し、3 つの支援事業別管理者、プラットフォーム全体を管理する総合管理者の役割、管理業務の操作方法などを明示していることが確認された。

- ② 地域課題の取組情報をプラットフォームに掲載・共有する手順として、コンソーシアムで実施している取組み情報を掲載するとともに、インターネット上で公開されている大学、短期大学の取組みを探索し、リスト化してリンクをかける作業を大重委員中心に進めることを確認した。

（4）短期大学教育改革 ICT 戦略会議の 2021 年度事業計画案について

- ① 短期大学生の社会人基礎力の強化、短期大学のプレゼンス向上を促進する事業として、複数の短期大学と自治体等が協働する地域貢献支援活動のコンソーシアムをネット上に形成し、教育を通じた「高齢者との交流促進・課題解決策の支援事業」、「地域価値発見の支援事業」、「地域課題取組み情報共有の支援事業」のモデルを策定するため、私立の参加短期大学間で試行し、支援事業のニーズや課題を共有して可能性を意見交流する「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」をオンライン方式で実施することを確認した。

- ② プログラムの構成として、地域貢献支援事業の試行段階における課題と成果について 2 支援事業の活動を報告し、全体討議で多くの短期大学が参加しやすい戦略を検討することを中心とするが、それだけでは参加者が見込めないため、オンライン授業の学生実態調査の結果（戸板女子短期大学）を紹介するなど、話題提供を考えておくことを確認した。

2. 今後の委員会開催日程について

次回委員会は 6 月 19 日（土）14 時に引き続き Zoom 会議にて開催し、今年度の取組み計画及び開催要項について検討することとした。